

シリーズ「地域連携①」

地域医療連携

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

神経内科医師 河本 純子

高齢化、生活習慣病の増加、疾病構造の変化に伴い、医療はますます高度化・専門化してきています。医療・介護・福祉など医療資源を有効活用し、患者さんを中心に切れ目なくサービスを提供する医療連携体制による「地域完結型医療」を厚生労働省は推進しています。今回は医師、医療ソーシャルワーカーやコメディカルスタッフなどの「地域医療連携」の取り組みについて本シリーズで紹介いたします。

地域医療連携とは、患者さんがより良い医療を

剤師と薬局薬剤師との連携⑤リハ・リハ連携(急性期のリハビリ、回復期のリハビリとの連携)⑥NST(栄養サポートチーム)連携(他の医療機関、在宅との連携)など多くの医療連携があり、ケアマネージャー・ヘルパー・市町村保健師、介護保険担当課、保健福祉事務所その他多くの患者さんを取り巻く医療関係機関が協力し合っ

て、患者さんの大切な治療、療養にかかわる必要な情報を伝え、切れ目のない安心な医療を提供しようと努力しています。地域医療連携はいわゆる「チームプレー」のようなものとも言えます。また、和歌山病院は開放型病床を設置し、病診連携のより一層の活性化を推進しています。開放病床は、当院の登録医

に登録している医療機関(診療所・開業医)の医師、看護師、事務職と多職種が協力して連携しています。地域医療連携室では、患者さんやご家族が、安心して治療を受け、療養できるようにご相談をお受けしています。主な業務内容は、医療相談(経済的な問題、療養中の不安、社会的問題の解決や調整のお手伝い)、入院・退院に向けたお手伝い(退院支援、在宅療養支援)、受診、受療支援、他の医療機関からの紹介患者さんの受け入れ調整、在宅支援カンファレンスなどを行っております。どうぞ、ご遠慮なくご相談ください。

最近の和歌山病院の地域医療連携の活動をご紹介します。

①和歌山県拠点型結核相談支援センター設置
平成27年8月1日より設置。

①病・病連携(急性期、高度専門医療の病院と回復期の病院の連携)②病・診連携(病院と診療所、かかりつけの医院との連携)③看・看連携(病院看護師と退院後の訪問看護師、施設看護師との連携)④薬・薬連携(病院薬

師と薬局薬剤師との連携)⑤リハ・リハ連携(急性期のリハビリ、回復期のリハビリとの連携)⑥NST(栄養サポートチーム)連携(他の医療機関、在宅との連携)など多くの医療連携があり、ケアマネージャー・ヘルパー・市町村保健師、介護保険担当課、保健福祉事務所その他多くの患者さんを取り巻く医療関係機関が協力し合っ

て、患者さんの大切な治療、療養にかかわる必要な情報を伝え、切れ目のない安心な医療を提供しようと努力しています。地域医療連携はいわゆる「チームプレー」のようなものとも言えます。また、和歌山病院は開放型病床を設置し、病診連携のより一層の活性化を推進しています。開放病床は、当院の登録医

に登録している医療機関(診療所・開業医)の医師、看護師、事務職と多職種が協力して連携しています。地域医療連携室では、患者さんやご家族が、安心して治療を受け、療養できるようにご相談をお受けしています。主な業務内容は、医療相談(経済的な問題、療養中の不安、社会的問題の解決や調整のお手伝い)、入院・退院に向けたお手伝い(退院支援、在宅療養支援)、受診、受療支援、他の医療機関からの紹介患者さんの受け入れ調整、在宅支援カンファレンスなどを行っております。どうぞ、ご遠慮なくご相談ください。

①和歌山県拠点型結核相談支援センター設置
平成27年8月1日より設置。

①病・病連携(急性期、高度専門医療の病院と回復期の病院の連携)②病・診連携(病院と診療所、かかりつけの医院との連携)③看・看連携(病院看護師と退院後の訪問看護師、施設看護師との連携)④薬・薬連携(病院薬

師と薬局薬剤師との連携)⑤リハ・リハ連携(急性期のリハビリ、回復期のリハビリとの連携)⑥NST(栄養サポートチーム)連携(他の医療機関、在宅との連携)など多くの医療連携があり、ケアマネージャー・ヘルパー・市町村保健師、介護保険担当課、保健福祉事務所その他多くの患者さんを取り巻く医療関係機関が協力し合っ

て、患者さんの大切な治療、療養にかかわる必要な情報を伝え、切れ目のない安心な医療を提供しようと努力しています。地域医療連携はいわゆる「チームプレー」のようなものとも言えます。また、和歌山病院は開放型病床を設置し、病診連携のより一層の活性化を推進しています。開放病床は、当院の登録医

に登録している医療機関(診療所・開業医)の医師、看護師、事務職と多職種が協力して連携しています。地域医療連携室では、患者さんやご家族が、安心して治療を受け、療養できるようにご相談をお受けしています。主な業務内容は、医療相談(経済的な問題、療養中の不安、社会的問題の解決や調整のお手伝い)、入院・退院に向けたお手伝い(退院支援、在宅療養支援)、受診、受療支援、他の医療機関からの紹介患者さんの受け入れ調整、在宅支援カンファレンスなどを行っております。どうぞ、ご遠慮なくご相談ください。

①和歌山県拠点型結核相談支援センター設置
平成27年8月1日より設置。

①病・病連携(急性期、高度専門医療の病院と回復期の病院の連携)②病・診連携(病院と診療所、かかりつけの医院との連携)③看・看連携(病院看護師と退院後の訪問看護師、施設看護師との連携)④薬・薬連携(病院薬

師と薬局薬剤師との連携)⑤リハ・リハ連携(急性期のリハビリ、回復期のリハビリとの連携)⑥NST(栄養サポートチーム)連携(他の医療機関、在宅との連携)など多くの医療連携があり、ケアマネージャー・ヘルパー・市町村保健師、介護保険担当課、保健福祉事務所その他多くの患者さんを取り巻く医療関係機関が協力し合っ

て、患者さんの大切な治療、療養にかかわる必要な情報を伝え、切れ目のない安心な医療を提供しようと努力しています。地域医療連携はいわゆる「チームプレー」のようなものとも言えます。また、和歌山病院は開放型病床を設置し、病診連携のより一層の活性化を推進しています。開放病床は、当院の登録医

に登録している医療機関(診療所・開業医)の医師、看護師、事務職と多職種が協力して連携しています。地域医療連携室では、患者さんやご家族が、安心して治療を受け、療養できるようにご相談をお受けしています。主な業務内容は、医療相談(経済的な問題、療養中の不安、社会的問題の解決や調整のお手伝い)、入院・退院に向けたお手伝い(退院支援、在宅療養支援)、受診、受療支援、他の医療機関からの紹介患者さんの受け入れ調整、在宅支援カンファレンスなどを行っております。どうぞ、ご遠慮なくご相談ください。

①和歌山県拠点型結核相談支援センター設置
平成27年8月1日より設置。